

会報

第93号

平成18年2月20日
新潟県特別支援教育研究会
事務局：
新潟市白山浦1-207-3
鏡淵小学校内
発行：文久堂

「役割」を考える

新潟県特別支援教育研究会 会長

松原 誠

数年前、ある研修会で、当時の宇都宮大学附属養護学校の佐久間校長先生から「天使の子どもたちへ」と題する一文を頂きました。そこに高等部3年生の木内チエさんの詩が紹介されていました。「第2回世界ハート展（NHK）」の入選作品です。

おかあさん わたしが生まれた時
空はどんな色してた
わたしが歩いた日 覚えてる
わたしを生んでくれて
ありがとう

佐久間先生は「この詩にはこの世に生を与え、これまで自分を支えてくれたものに対する感謝の気持ちと畏怖の念とが素直に表現されています」と感想を述べています。また「全ての人間は、六、七個の病因遺伝子を持っていて、誰

が障害を負うかは全く、偶然の結果だ。障害を持って生まれた人は自分に代わって、負の遺産を受け取ってくれたのだ。英国では、障害のある子どもを『天使の子どもたち』と呼び、教育や福祉の充実を図っている」と、英国の様子を紹介しています。この一文を読んだ、「この子たちに幸せを」という私の願いはいっそう強くなりました。「幸せ」といっても、そんなに大仰なことではないのです。日々の生活の中に、自分自身の力で取り組むことがあり、適度な支援を受けながら、自力でやり遂げて、周りの人たちからも認めてもらえる「幸せ」です。成就感を味わい、気分よく過ごせることは、誰にとっても「幸せ」なことではないでしょうか。

この冬休みの間に一冊の本を読みました。新井満の「自由訳・般若心経」という本です。昨年十二月に発行されたばかりのもので、今まで、納得のいく訳本にはなかなか出会いませんでしたが、新井さんの訳本を読んで「目から鱗」と思うところが、たくさんあったのです。その一節です。「あなたが生まれてこなければならなかった意味と理由とはなにか。それは、役割をはたすためなのだよ。あなたでなければたせない、あなただけの役割をはたすために、あなたはこの世に生まれてきた。」「いただきたいのちに感謝しながら、自分の役割をはたしなさい」と。新井満さんのお母さんは助産婦さんでした。九十一歳でなくなるまで現役として活躍されたそうです。お母さんは「どんな赤ちゃんにも、役割があつてさ：天才には天才なりの、凡人には凡人なりの、障害のある人には障害のある人なりの役割がきつとあつてさ。きつとあつたからこそ、この世にオギャー！とやって生まれてきたんだわさ、この赤ちゃん、どんな子に育つかねえ。」と言われていたそうです。

冬休みを終え、私自身の「役割」とは何かを自問自答しているこの頃です。

今年もよろしく願います。

第45回

全日本特別支援教育研究連盟全国大会新潟大会

～一人一人が豊かに生きる新しい時代を指向して～

- ・とき：平成18年10月18日(水)～20日(金)
- ・会場：全体会 新潟県民会館大ホール 10:00～
分科会 朱鷺メッセ、新潟市小中学校、養護学校を予定
- ・日程：1日目 全体会 2日目 分科会 3日目 教育視察



全国から集まる数々の実践から、新しい特別支援教育のあり方を考えましょう！

上越地区特別支援研究大会

上越市北部大会

兼新潟県就学啓発推進会議

【大会主題】

『一人一人の教育的ニーズに応じた支援の充実』

【期日】十一月十六日(水)

【会場】上越市吉川多目的集会所

上越市立吉川小学校

【参加人数】約二百三十名

【分科会】

- ①学校・学級経営
- ②小中学校知的障害児教育部会
- ③小中学校情緒障害児教育部会
- ④言語・難聴教育部会
- ⑤発達障害児教育部会
- ⑥保護者・行政と生涯福祉部会

【全体指導】

新潟県教育庁義務教育課

松岡義男 指導主事様

「新潟県における特別支援教育の現状と課題」について

【講演会】

上越教育大学障害児教育

実践センター長

土谷 良巳 様

「障害のある子どもの理解と授業づくり」

【研究大会の概要】

今研究大会は、今までの「一人一人に応じた教育」「社会参加・自立に向けた教育」を一層充実させ拡大させるための支援・指導の

あり方はどうあるべきかを、実践を通して協議することをねらいとして開催いたしました。

曇交じりの肌寒い日でしたが、

当日は二百名を超える参加者を得て、大会主題に沿った活発な意見交換が行われました。特に、「発達障害児教育部会」への参加者が他の部会の人数を大幅に上回り、LD、ADHD等の適切な理解と支援の必要性を強く感じました。

また、各部会では提案者の確かな実践に裏付けられた発表に、参加者が真剣に聞き入っている様子が見られました。

さらに、松岡指導主事様をはじめ、各分科会の指導者の方々からは適切なご指導を頂き、まさに今後の授業の取り組みや支援体制のあり方を学びあう絶好の機会となりました。

最後に上越教育大学の土屋先生から、障害のある子どもの理解と



授業づくりについて具 thể例を交えたご講演を頂き、参加者一同、一層理解を深めることができました。

中越地区特別支援研究大会

小千谷大会

兼新潟県就学啓発推進会議

『一人一人の子どもをみつめ、生きる力を育もう』

平成十七年十一月二十二日、小

千谷市民会館を会場に、中越地区小千谷大会を開催しました。従来の「特殊教育」から一人一人のニーズに応じて適切な教育的支援を行う「特別支援教育」へと移行している現状を踏まえながら、市内各校の協力のもとに準備を進めてきました。

当日は、約二百名の参加者が六つの分科会に分かれ、発表者の確かな実践に基づいた実践発表・提案のもと活発な意見交換が行われました。六名のコーディネーターの適切な助言を受けながら運営され、今後の支援体制のあり方を学ぶ機会となりました。

特に、LD・ADHD・高機能自閉症分科会には七十名近い参加がありました。各学校・学級に支援を必要とする児童生徒が多く在籍しており、教師の関心の高さを再認識する機会にもなりました。

分科会後は、上越教育大学教授の藤原義博先生から『一人一人の教育的ニーズに応える特別支援教育とは』と題して、講演をしていただきました。

分科会名	
1	小学校知的障害・情緒障害
2	中学校知的障害・情緒障害
3	言語・難聴障害
4	病虚弱・肢体不自由・重複
5	LD・ADHD・高機能自閉症
6	育成会(保護者の会)

藤原先生から

は、発達障害者支援法の成立と特別支援教育の進むべき方向性や個別の支援計画作成のための組織やシステムの整備、自ら主体的に生きる力を育むための「学び」の機会の保障、「教え合う」関係から「学び合う」関係への共同学習のあり方など、多くの示唆に富んだ内容の講演をいただくことができました。



会場ロビーには、市内障害児学級児童生徒の絵画をはじめとする作品を展示しました。また、機織り制作の実演を行ったり、生徒から授業で作成したしおりのプレゼントをしたりし、参加者とふれあいの時間をもつことができました。

地区研究大会

下越地区特別支援研究大会

旧三市中東蒲原大会

兼新潟県就学啓発推進会議

平成十七年十一月二十五日、新潟地域保健センターと新潟地区市民会館を会場に、下越地区特別支援教育研究大会旧三市中東蒲原大会、兼新潟県就学啓発推進会議を開催いたしました。

旧新津市や白根市、亀田町、横越町、小須戸町などが平成十七年三月に新潟市に合併したものの、旧三市中東蒲原郡の組織としてのこの研究大会を主管し、開催することになりました。

会場は保健センター故に一般市民も出入りする都合上、隣の市民会館も使わせていただきました。落雷で一瞬停電する悪天候の中、遠い駐車場を利用していただいたり、一部の分科会参加者には戸外を歩いて移動していただいたりして、大変御迷惑をおかけしました。

これらの悪条件にもかかわらず、百七十名を超す参加者を得て、「特別支援教育の在り方を求めて子どもたちをどう支え、どう育てるか」の大会主題の下で、県教育庁の本間直也副参事より「特別支援教育の現状と課題」についての全体指導をいただいたり、六つの分科会で提案発表や活発な意見交換がなされたりしました。

一番参加者が多かったのは、時代を反映してか「LD、AD/HD等部会」でした。ここでは今年度開設された情緒通級教室担当者と、同校の通常学級担任の二名からの発表がなされ、校内の支援体制や担任の取り組みなどについて充実した話し合いがなされました。



また「親の会部会」では、支援学級に通う小学生の保護者と、作業所に通う青年の保護者の二名からの発表があり、三十名の参加者から、将来の子どもの姿についてや、学校への要望などについて活発に話し合われました。

各分科会の六名の指導者からは、「子どもたちをどう支え、どう育てるか」について、具体的な適切な指導をいただき、これからの特別支援教育の在り方を学び合う絶好の機会となりました。

新潟県地区特別支援研究大会

佐渡地区大会

兼新潟県就学啓発推進会議

「一人一人のニーズに応じた特別支援教育の充実を求めて」平成十七年八月五日、金井コミユニティセンターを会場に、新潟県就学啓発推進会議を行いました。

新潟大学の長澤正樹助教を講師としてお招きし、「特別な教育的支援を必要とする子どもたち」と題して講演会を行いました。

当日は、教職員・保護者・保育士・福祉行政関係者等、百五十名を超える参加者があり、有意義な講演会となりました。

参加者からは、「今日で切実なテーマであり、期待していた内容だった」との感想を多くいただきました。

会場に、島内小中学校特殊学級及び佐渡養護学校の児童生徒の絵画を展示しました。講演開始一時間前から参加者の来場があり、この絵画展も好評でした。

また、十一月十六日、佐渡市立両津小学校及び佐渡島開発総合センターを会場に、新潟県特別支援教育研究大会佐渡地区大会を開催しました。

両津小学校では、授業公開とビデオによる実践紹介を行いました。

た。多くの先生方の前で、子どもたちは「大きなかぶ」の劇を熱演し、また、普段の様子もビデオで紹介され、参加者に多くの示唆を与えました。

その後、佐渡島開発総合センターに会場を移し、全体会と分科会を行いました。

全体会では、義務教育課指導主事佐藤昇誠様から「特別支援教育の現状と課題」についてのご指導をいただきました。

分科会では、知的障害小学校部会・知的障害中学校部会・情緒障害部会・発達障害部会の四部会を設けました。百名を超える参加者は、それぞれの部会に別れて、発表者からの提案を受け、活発な意見交換を行いました。

特に、第四分科会の「発達障害部会」への参加者は他の部会よりも多く、LD・AD/HD等の発達障害に対する関心が高いことが伺われました。



平成17年度 各研究部の報告

知的障害部

○研究主題

「発達障害児の理解とその支援の仕方」

―学習障害をもつ子の指導―

○研修会の期日及び会場

・期日 平成十八年二月二十一日

・会場 県立生涯学習センター

○講師

・国際医療福祉大学保健学部

助教授 田中 裕美子様

○概要

この原稿を執筆する段階では、講演会が実施されていないため、その時の様子を報告することは出来ない。

この講演会を実施するまでの経緯を紹介することで、部員の熱意をお伝えしたい。

昨年は、中越地震に見舞われたため、研修会を中止せざるを得なかった。

今年こそと張り切って、幹事会を開き、よい研修を行いたいと話合った。そこで出されたことは県内の講師でなく、中央でしかも現場で指導に当たっている実践者

の話が聞きたいということであった。

事務局がこれはいくらに何度も当たったが、それぞれ多忙を極める方ばかりだった。ようやく田中先生から承諾を得ることができた。

きつとすばらしいお話が聞けるものと期待している

情緒障害部

○研究主題

「自閉的傾向のある児童・生徒の理解と支援のあり方」

○第一回担任者研修会

・日 時

平成17年8月5日(金)

午後12時45分～4時

・会場

長岡市立養護学校

・参加人数

245名

・内容

総会、講演会

講演会

講師

はまぐみ小児療育センター

診療部長 東條 恵 様

演 題

「自閉症スペクトラム

―私の理解(心の理論を

通して)と支援―」

「心の理論」を中心に、自閉症の理解と支援のあり方について、医療現場における専門的見地からご講話をいただいた。

○第二回担任者研修会

・日 時

平成18年2月10日(金)

午後1時45分～4時15分

・会場 新潟ユニゾンプラザ

・参加人数 110名

・内容

3分科会に分かれ、実践発表をもとに、アドバイザーの指導を受けながら、協議した。

言語難聴部

○総会及び研修会

・期 日

平成17年7月25日(木)

・会場

長岡市教育センター

・参加人数 70名

・議 事

①平成16年度事業・会計報告

②平成17年度事業・予算審議

③役員選出及び承認

④幹事会報告

・講演会

講師 神奈川県立平塚盲学校

校長 中田 正敏 様

演 題

「神奈川の支援教育」

内 容

神奈川の支援教育の現在の動向と今後の展望について、ご自身の行政の体験を基に、分かりやすくお話ししていただいた。

○幹事会

・期 日

平成18年2月28日(火)

・会場

新潟市立鏡淵小学校

・参加人数 10名

・議 事

①平成17年度事業・会計報告

②平成18年度事業・予算審議

病弱肢体不自由部

病弱肢体不自由部は、研修会と冊子発行を隔年で行っている。今年度は、A4の冊子を発行し、紙上実践発表とする。

○紙上実践発表の内容

・生活単元学習の実際、教科指導や自立活動の指導の工夫、

日常生活の指導のアイデア

・役に立った教材や資料、手作り教材の紹介

・年間指導計画、個別指導計画の形式、交流教育計画

・児童生徒の成長や日々の実践を振り返って

・その他実践して「これはよかった」というもの